

平成27年度 学校法人三幸学園 福岡ウェディング&ブライダル専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 高岡 利和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 藤田 憲子

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来約30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、各姉妹校で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画

・人間性を高める教育の実践

「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo.1のプランナー・コーディネータを育成する」ことを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出することができると考えている

・高い現場力の醸成

現場力の醸成を目的に、各教科で重点教育目標を作成し、全教職員への共有を行うほか、教科会を実施することにより、教育の行き届きのきめ細かさを図ることにより、質の向上を実現できるよう計画している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

| 評価項目 | 自己評価 |
|--|------|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 4 |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか | 4 |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

①現状と課題

- ・「教育理念・人材育成像」を内外に浸透していくことで学校の教育特徴を創りあげていく。
- ・ホームページや掲示物、教員による度重なる積極的な外部の方、保護者の目に留まる掲載と呼びかけを継続する。

②今後の改善方策

- ・引き続き企業や業界団体との関係性を高めていく活動を通じ、業界動向を正確に把握し、業界の動向や求める人材像を正確に捉えて学校教育に反映していく。

③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、ウェディング分野におけるビジョンを「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」と設定した。これらを踏まえて、人材育成方針を「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo.1のプランナー、コーディネーターを育成する」と設定し、全教職員への浸透を実施している。より即戦力となる人材を育成し、業界のニーズをより深く理解することを目的に、ウェディングプロジェクト・企業インターンシップというカリキュラムを中心に学外での活動に積極的に参加している。

【委員コメント】

- ・目指す人材像がしっかりと示されている
- ・生徒が教育理念を常に意識し行動できるように周知されている

(2). 学校運営

| 評価項目 | 自己評価 |
|--|------|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3 |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 |
| 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3 |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 3 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

①現状と課題

・継続的に健全かつ安定的な学校運営を行うとともに、各教育取り組みや活動については、積極的に公開していく。

②今後の改善方策

- ・人事・労務・就業環境の整備に努め、業務の効率化を積極的に推進する。
- ・情報システム化等による業務効率化の促進

③ 特記事項

年3回、定期的に全教職員・講師に向けての会議を実施。

運営方針の浸透と共に、情報共有を積極的に行なっている。また、姉妹校間での情報や資料を共有し、業務効率化を図っている。

【委員コメント】

- ・業界として魅力あることが生徒に対して重要であるため、より良い環境体制に取り組んでいきたいが、生徒自身ももっと業界が求めることを理解する必要性を感じる
- ・更なる業界との連携体制が重要

(3). 教育活動

| 評価項目 | 自己評価 |
|--|------|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 3 |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 3 |
| 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 3 |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 3 |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3 |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 現状と課題

- ・社会ニーズを取り込み、教育手法の確立と体系化など、更なる教育活動の質の向上。
- ・教職員にむけての教育手法に向けての研修、専攻分野における研修を実施しており、日ごろの指導に役立てている。

② 今後の改善方策

- ・企業、業界団体との産学連携を推進するとともに、企業・関係者様のご意見を頂きながら、教育の質の向上に努めていく。

③ 特記事項

- ・実習先企業様へ実習アンケート及び評価表のご協力を頂き、本校生徒の現場における適切な外部評価の把握と教育機会の改善指針としている。

【委員コメント】

- ・全体的に評価できるがもっと業界の本質を学ぶ機会を強化するとよい。スキルは企業に就職してから学ぶことが出来るがマインドは早い段階で築いておくことが重要

(4). 学修成果

| 評価項目 | 自己評価 |
|---------------------------------------|------|
| 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 資格取得率の向上が図られているか | 3 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 現状と課題及び今後の方針

- ・資格試験の資格取得率の更なる向上にむけ、全国の姉妹校間で検定対策の情報共有や模擬試験の共有を行っている。
- ・就職ガイダンスを実施し、姉妹校卒業生からの体験談・企業の方の講話を聞くことができる機会を設けている。
- ・退学率低減のために、新任担任クラスに副担任制度を設け、サポート体制を確保している。

② 今後の改善方策

- ・常に変化する業界動向をとらえる為、実習就職先の新規開拓とともに、企業様へも訪問を強化し、就職先が求める人材像を把握し、日ごろの教育活動への反映。

③ 特記事項

- ・各種アンケート(授業・実習・卒業生)を有効活用し、課題発見と具体的な施策検討を行っている。

【委員コメント】

- ・丁寧な資格、就職支援であると思う
- ・保護者対応は今後も細目に行なった方がより良いと思う

(5). 学生支援

| 評価項目 | 自己評価 |
|---|------|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| 保護者と適切に連携しているか | 3 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 4 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 現状と課題

- ・入学前の保護者会実施と随時の学校行事観覧のご案内を送っている。
- ・今年度より入学後、担任から保護者へ電話連絡を行い生徒の様子や保護者から気になる点、不安点をお聞きし、コミュニケーションを図っている。
- ・最低年2回の担任との個人面談の実施や、担任だけでなく全教職員で円滑な連携を取り、支援体制を強化するため、必要に応じてクラス会議やクラス連絡ノートを作成し、環境整備をおこなっている。
- ・実習就職支援の教員の格差是正を見据え、年間の指導計画を作成し、毎週の会議にて確認を実施している。

② 今後の改善方策

- ・保護者とも継続的にコミュニケーションをとることが出来るような仕組みを検討する。
- ・実習、就職にともなう年間計画について、業界動向を正確に把握し、制度を高める

③ 特記事項

- ・スクールカウンセラーの設置
- ・卒業生へのフォローを目的としたホームページ「Sanko Link」の開設

【委員コメント】

- ・卒業後の教員のフォローができる体制があると感じる

(6). 教育環境

| 評価項目 | 自己評価 |
|--|------|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3 |
| 防災に対する体制は整備されているか | 4 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 現状と課題

・校舎及び設備については、保守管理企業様と円滑な連携のうえで、安心・安全な教育環境の維持向上に努める。また、防災指導を一過性で終わらせるのではなく、全教室へ避難経路を掲示している。

② 今後の改善方策

・本校教育理念・人材育成像をご理解いただいた学外の実習協力企業様との連携強化。

③ 特記事項

・視聴覚などの設備は各教室に設置。

【委員コメント】

- ・適切であると考え
- ・これからも生徒のために環境設備に取り組んでいただきたい

(7). 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 自己評価 |
|-----------------------------|------|
| 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 現状と課題

・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多様なニーズに応え、健全な学校経営の基盤となる募集に取り組んでいる。学生募集活動は県の指導に準じて適正に行っているが、教育成果をより分かりやすく伝えていけるよう改善が必要

② 今後の改善方策

・近年は学費支払いが困難であることを理由に、進学を辞退する生徒も学生も多くなっている為、特に保護者説明会やパンフレットを通じ、明確な学費サポート体制や学納金の総額をわかりやすく伝えることに努めていく。

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している
- ・地域で設置されている広報室と連携しながら、退学折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機会を通じて正確に伝えられるように計画的に活動を展開している。

【委員コメント】

- ・適切であると考え

(8). 財務

| 評価項目 | 自己評価 |
|--------------------------|------|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。
また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

【委員コメント】

- ・適切であると考え

(9). 法令等の遵守

| 評価項目 | 自己評価 |
|-------------------------------|------|
| 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 現状と課題

- ・更なる法令遵守の推進。また、会議や掲示物等を通じて、全ての職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る

② 今後の改善方策

- ・学校ホームページ等を通じ、自己評価の公開を実施していく

③ 特記事項

- ・平成27年度より自己評価結果より公開

【委員コメント】

- ・適切であると考えている

(10). 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 自己評価 |
|---|------|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 現状と課題

- ・生徒の学びの機会と地域貢献の連動をめざし、ボランティア活動を実施している。

② 今後の改善方策

- ・地域貢献につながる活動を継続的に図る

③ 特記事項

<事例紹介(27年度実績)>

- ・成人式ヘアメイク

実習、就職先の企業様との提携により、成人式にあわせてヘアメイクを実施。実践力を養い、現場の空気感を肌で感じられる機会となっている。

- ・外部専門学校(声優養成)の履歴書用ヘアメイクを実施。

実際に使用する写真撮影現場でヘアメイクを行うことで撮影時間を意識した現場体験の機会となった。

【委員コメント】

- ・適切であると考える
- ・今後もボランティアを継続していただきたい

以上